

吉備国際大学研究紀要  
(人文・社会科学系)  
第34号, 1-11, 2024

# ネコイヌパーソナリティタイプ尺度 (CADS) の利便性向上の検討 ——タイプ分類とタイプ別相性の研究を経て——

土居 正人\*・鳥越 貴裕\*・田中 沙貴\*\*

**Examination of improving convenience of Cat and dog personality type scale (CADS):  
Through researching type classification and good match by type**

Masahito DOI\*, Takahiro TORIGOE\*, Saki TANAKA\*\*

## Abstract

**Objectives:** This study aimed to classify Cat and Dog Personality Types (CDPT) in CADS. Furthermore, it investigated the combination of a good match of CDPT classification and improved the convenience of using the scale.

**Methods:** A questionnaire was administered to 103 university students, of which 100 were valid responses were obtained (97% valid response rate). The number of sub-participants (best friends) who sent e-mails from the survey participants and responded was 76, of which 76 were valid responses were obtained (100% valid response rate).

**Results:** CDPT in CADS was classified into four categories. Scores of  $1.25SD$  or more were classified into Cat personality type 2 (CPT2), those with an average or more and less than  $1.25SD$  were classified into Cat personality type 1 (CPT1), those with a  $-1.25SD$  or more and less than the average were classified into Dog personality type 1 (DPT1), and those with  $-1.25SD$  or less were classified into Dog personality type 2 (DPT2). Next, the good match of each type was examined. The percentage of type good match of participants and sub-participants was calculated. CPT2 was CPT1 (41.3%), CPT1 was CPT2 (34.0%), DPT1 was DPT1 (37.0%), and DPT2 was CPT2 (32.1%).

**Conclusions:** The research results improve the convenience of using the scale and make it easier for various researchers to utilize it in the future.

**Key words :** Cat and dog personality type, Best friend, Good match, Classification, Validity

**キーワード :** ネコイヌパーソナリティタイプ, 親友, 相性, 分類, 妥当性

---

\* 吉備国際大学心理学部心理学科  
〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8  
*Department of Psychology, School of Psychology, Kibi International University  
8 Iga-machi, Takahashi, Okayama, Japan (716-8508)*

\*\* 社会福祉法人四ツ葉会  
〒710-0011 倉敷市徳芳501-1  
*Social Welfare Corporation, Yotsubakai.  
501-1, Tokubo, Kurashiki-shi, Okayama, Japan (710-0011)*

## 目的

人の性格とその分類については、体液（血液や胆汁）と性格の関連や、血液型と性格との関連等、紀元前から現代に至るまで様々な研究が行われ、人々の関心を惹き続けている。人の性格を分類することは、自分と相手との差異から自分以外の人を知る側面があり、さらには特性論に比べ簡易的で、理解しやすく、他者に説明しやすい面もあることから、利便性や汎用性が高く、そこが人の興味を引く所以となっているのであろう。

ところで、近年、人の性格を動物のネコに似た性格とイヌに似た性格に分けて捉えようとする試みが始まっている。動物のネコやイヌは、ペットとして多く飼われており、今では私達にとって身近な存在となっている。これらの動物は、古代から人間と密接にコミュニケーションをとり、生活を共に過ごしてきた経緯がある。そこには相利共生関係が存在し（鈴木, 1999）、それぞれがメリットを感じていたからこそ、これまで助け合って生きてきたのだろう。そのような付き合いを通していくうちに、近年では人がネコやイヌを好むのは、人間側の性格が関連しているのではないかと考えられるようになった（例えば、Stanley, 2010；McKinnon & Patnaik, 1998等）。しかし、選好の観点から人間の性格を分類しようとした場合、飼育者と動物のネコとイヌの性格は、似たものになりやすいという報告（斎藤他, 2011；田島, 2017）と異なるものになりやすいという報告（Stanley, 2010；斎藤, 2010）の両方が見られ、どちらの性格であるかを分類することは困難であった。そこで、その考え方に類似して、人の性格は選好によるものだけではなく、動物のネコやイヌの気質や行動特徴に類似した性格に対応させて分類することができるのではないかと考えられるようになった。動物のネコの特徴に似た性質を持つ者は「ネコ人間 (Cat person)」とし、イヌの特徴に似た性質を持つ者は「イヌ人間 (Dog person)」とされること

もあり（例えば、Alba & Haslam, 2015）、その性格の特徴の検討が始まっていた。

このパーソナリティタイプは、まだ研究が浅く、調べる状況や場面においても大きく左右されてしまうことから、どちらにでも捉えられる結果が出ていると考えられた。そこで田中・土居（2021）は、比較的研究結果の多い立場を取り、新しい性格分類を試みることにした。ネコの気質・行動特徴を持つ者を「ネコパーソナリティタイプ: Cat personality type（以後、CPT）」とし、イヌの気質・行動特徴を持つ者を「イヌパーソナリティタイプ: Dog personality type（以後、DPT）」と表現し、量的調査による解析を経て、それぞれの性格特性の構造を確認しようとした。その結果、ネコイヌパーソナリティタイプ (Cat and Dog Personality Type: CDPT) を測定する尺度として、35項目5因子からなるネコイヌパーソナリティタイプ尺度 (Cat And Dog personality type Scale: CADS) が完成した。因子としては「活動的-消極的」因子、「目立ちたがり-引っ込み思案」因子、「支配的-忠誠的」因子、「警戒的-無防備的」因子、「面倒くさがり-真面目」因子であり、これらの合計得点が高くなるほど、CPTであるとし、その逆はDPTであるとした。その後、再テスト法、確認的因子分析による構成概念的妥当性や基準関連妥当性、内容的妥当性による検討が行われて、信頼性と妥当性が確認された。

この尺度で分類される性格は、人の社会的な現実場面に置き換えてみても、納得できる点が多い。例えば、活動的で目立ちたがり屋であるが、誰かに対して規制をするなど、支配的で積極的な反面、自分のこととなると面倒くさがりで、他者からの関わりに警戒心むき出しな人。あるいは、消極的で、引っ込み思案ではあるが、他者の言うことに忠誠的で、他者からの関わりに対して無防備的であり、真面目に作業をこなそうとする人。このような人達は私達の日常においてもよく見かけるだろう。しかし、CPTとDPTの2種類のみで考えるとそれだけが存在するのではなく、極端か、

それだけではない中間型のタイプもいそうである。これを分類することができれば、より現実場面に即した類型論的性格尺度の有用性が高まると考えられた。

そこで、本研究では尺度得点を高い順に4群に分け、高い方からCPT2（以後、ネコ2タイプ）、CPT1（ネコ1タイプ）、DPT1（イヌ1タイプ）、DPT2（イヌ2タイプ）と表現する。ネコ2タイプの性格は、全ての因子の得点が高い傾向にあると想定される。一方でイヌ2タイプは、全ての因子の得点が低いことが想定される。残りのネコ1タイプとイヌ1タイプは、混ざり合っているため、それぞれのタイプにおいてどのような因子の得点を示すのかは分からない。したがって、本研究ではそれを調べることにする。また、これら4種の性格は、具体的な動物をイメージできそうである。利便性向上の観点からその設定を行う。

次に本研究では、CADSの分類をすることに加えて、相性の研究も行う。相性とは、自身と相手方との性質の合う合わないことであり（『広辞苑』）、人と人が何かしらの理由があって惹かれあい、共に過ごしやすくなることである。岡田（2008）は、親密な友人関係が構築され維持されていく過程には、人が友人に対して働きかけることで相互作用が生まれ、そこには働きかける方の性格等が関連しているという。その反対に、相性が合わないということは、友人ではなく対立していることを意味し、それを無理に組み合わせようとする時にいじめや対人関係のトラブルへと発展しているのではないだろうか。同じように、動物のネコやイヌは人と共に過ごしてきたが、それに比べてネコやイヌ以外の動物はそうではなかった。これは、ネコやイヌは人との強い相性の結びつきがあったからに他ならない。そのため、CDPTにおける相性を調べれば、これらの疑問を解明することの一助となることが期待された。そこで本稿では、CDPT4分類の相性の組み合わせを調べることにした。

これまで動物のネコやイヌと人間のCPTとDPTの好意性の研究（斉藤，2010；斉藤・中村・平石・長谷

川，2011；Stanley，2010；田島，2017；Woodward & Bauer，2007）は相性の組み合わせについて検討されてきたとも考えられる。先述した田中・土居（2021）では、動物のネコを好きな人にはDPTが、イヌを好きな人にはCPTであることが想定されていた。それではCADSのCDPTにおいて、人と人における相性ではどのような組み合わせになっているのであろうか。それを検証するための方法として、調査参加者の親友を対象とすることが適切であると考えられた。なぜなら親友は、参加者の人生の中で最も相性が合うと認識した人であり、何かしら惹かれ合うものがあるからこそ選んだはずである。その親友関係について調べることで相性の構造を理解することができると考えられた。

また、この尺度は信頼性と妥当性が確認されているとはいえ、まだ作成されたばかりであり、不安定であることが想定される。そのため、以上の研究に加えて信頼性係数算出や確認的因子分析、外部基準となる性格尺度による検討を行うことで、本尺度の信頼性や妥当性を再確認する。

最後に、類型論による尺度を用いた研究が発展していくためには他の研究者や一般の人にも活用されていく必要があり、汎用性の高さが重要であると考えられる。汎用性を高めるためには簡便で実施しやすく、解釈は分かりやすく、現実場面にも役立つような質問紙を作成する必要があると思われる。そのため、最終的にすぐに実施できるようなCADSの例を示すことも目的に含める。

以上のことから本研究の目的は、CADSにおけるCDPTの分類をすることやCDPTの相性の組み合わせを調べること、尺度の信頼性と妥当性の検証を行うこと、さらにはCDPT分類の動物イメージの設定をすること、利便性の高いCADSの例を示すことであった。

仮説として、CPTは支配的な性格であり、DPTは従順であることから、CPTの相性の合うタイプは、DPTであると考えられる。その観点から考えると、

ネコ2タイプは、イヌ2タイプと親友であることが多いと考えられる。

## 方法

本研究は、相性検討のための調査と各タイプの代表者による得点範囲を設定する調査の二つがある。

### 1. 対象者

#### (1) 相性検討の調査

本調査は、A大学の学生103名（有効回答者100名、有効回答率97%、男性50名、女性46名、性別無回答3名）を対象に実施した。平均年齢は19.79歳、 $SD=3.12$ 歳であった。日本人は95名、日本人以外の学生は5名であった。

調査参加者からメールを送り返信があった副参加者（親友）は、76名（有効回答者76名、有効回答率100%、男性28名、女性47名、性別無回答1名）であった。平均年齢は、19.88歳、 $SD=2.73$ 歳であった。分析対象は全て日本人とした。なお副参加者は参加者の親友であり、一人の参加者につき1名の場合もあれば最大4名を指定した者もいた。副参加者の特徴を主として検討するときは、副参加者から見れば参加者が親友となるため、その場合は参加者を複製して検討を行った。各分析においてデータ数を増やすため、副参加者もデータに含めている。分析対象者は、結果の各分析にて表記している。

#### (2) 各タイプ代表者による得点範囲設定の調査

CDPTを4種に分けるにあたって、研究者らで各タイプに最も当てはまると想定された参加者を代表者（男女それぞれ1名以上）として選定し、直接声をかけて調査に参加してもらった。ネコ2タイプは全ての因子が高い者。イヌ2タイプはその反対の者を想定している。ネコ1タイプは、ネコ2タイプよりも各因子の度合いが低い者、イヌ1タイプは、イヌ2タイプよ

りも各因子の度合いが高い者であることを想定して選定した。対象者としてネコ2タイプの参加者は男性1名、女性2名であった（平均年齢は28.0歳）。ネコ1タイプの参加者は男性1名、女性1名であった（平均年齢は20.5歳）。イヌ1タイプの参加者は男性2名、女性1名であった（平均年齢は20.0歳）。イヌ2タイプの参加者は男性1名、女性1名であった（平均年齢は22.0歳）。

### 2. 本研究で用いた尺度と内容

相性検討の調査について、フェイスシートには調査の目的と意義についての説明があり、調査は強制ではないこと、応えづらい回答があれば飛ばしてもよいこと、回答を中止したとしても成績とは関係が無いこと、集計及び統計的解析は、集団単位で行われ、個人を特定しないこと。個人情報保護に関することが記載されている。個人に関する回答欄には、年齢、性別、職業区分（学生か社会人か）、国籍についてたずねた。

用いた尺度としては、ネコイヌパーソナリティタイプ尺度：CADS（田中・土居，2021）を用いた。この尺度は35項目5因子であり、4件法（1：全くあてはまらない～4：全くあてはまる）であった。因子構造としては、活動的-消極的因子（項目例として「好奇心旺盛な性格だ」、「人にちょっかい出すことがある」等がある）、目立ちたがり-引込み思案（「周りの人より目立ちたい」、「一緒にいる友達よりも特別扱いをされたい」）、支配的-忠誠的（「人の指示に従うことが多い（逆転）」、「人の後ろに続いて行動する方だ（逆転）」）、警戒的-無防備的（「友達を作るときに相手の性格を気にしない方だ」、「誰に対しても素の自分を見せる方だ」）、面倒くさがり-真面目（「面倒くさがりな性格だ」、「飽きっぽい性格だ」）等があった。 $\alpha$ 係数は、活動的-消極的因子は.80、目立ちたがり-引込み思案は.81、支配的-忠誠的は.73、警戒的-無防備的は.65、面倒くさがり-真面目は.65であった。確認的因子分析の結果では、適合度指標

は、 $\chi^2(550)=1356.09$ ,  $p<.001$ ,  $GFI=.79$ ,  $AGFI=.76$ ,  $RMSEA=.07$ ,  $AIC=1516.09$ であった。

妥当性検討のためにBigFive短縮版（並川・谷・脇田・熊谷・中根・野口, 2012）を用いた。29項目5因子からなっており、7件法（1:まったくあてはまらない～7:非常にあてはまる）であった。因子構造として、外向性因子（「社交的」, 「話し好き」）や情緒不安定性因子（「不安定になりやすい」, 「心配性」）, 開放性因子（「多才の」, 「進歩的な」）, 調和性因子（「温和な」, 「寛大な」）, 誠実性因子（「計画性のある」, 「几帳面な」）があった。 $\alpha$ 係数は外向性は.86, 情緒不安定性は.78, 開放性は.82, 調和性は.76, 誠実性は.78であった。

### 3. 調査手続き

相性検討の調査は大学の講義前に行われた。回答方法は大きく分けて二つある。参加者自身の回答と参加者が親友として認めた者（副参加者）の回答である。前者では、調査者からあらかじめ各参加者にIDとGoogleフォームによるウェブ調査のためのURLアドレス、親友に送るときに使用する送付用文章を送信しておいた。そして、調査実施前に説明を行った。各参加者は自身の携帯やパソコンから調査者が示したURLアドレスをクリックし、Googleフォームに移動し回答をしてもらった。その回答の際には自身に配布

されたIDを打ち込んでもらうように要請した。

後者については、まず参加者に自身にとっての親友に当たる人物をイメージしてもらった。参加者が親友を想定できない場合は、①自己開示や個人の考えを共有できる友人であるか、②LINE等のメールや電話の頻度が最も高い友人を選んでもらった。参加者が親友に対してLINEかメールを用いてURLアドレスを送り、あらかじめ用意していた親友への送付用文章をコピーアンドペーストをして送信してもらった。親友が2名以上いる場合についても同様の手続きを行った。

## 結果

### 1. 基礎データと確認的因子分析、性差の検討

本研究の統計的分析で使用したソフトはSPSS23であった。まず、各尺度合計の平均得点及びSD,  $\alpha$ 係数、性差の検討について算出した（表1）。この分析では参加者と副参加者のデータを使用している。結果として、 $\alpha$ 係数は $\alpha=.45\sim.88$ を推移していた。次にCADSの妥当性を検討するため確認的因子分析を行った。その結果、CADSの適合度指標は、 $\chi^2(555)=1260.69$ ,  $p<.001$ ,  $GFI=.71$ ,  $AGFI=.67$ ,  $RMSEA=.09$ ,  $AIC=1410.69$ であった。性差の分析も行った。結果、性差において有意な差が見られなかったため、以降の

表1 各尺度の平均得点及びSD,  $\alpha$ 係数, 性差のt検定結果

	全体 <i>n</i> =176		男性 <i>n</i> =78		女性 <i>n</i> =93		<i>t</i>	<i>r</i>	<i>df</i>
	<i>M</i> ( <i>SD</i> )	$\alpha$	<i>M</i> ( <i>SD</i> )	<i>M</i> ( <i>SD</i> )	<i>t</i>	<i>r</i>			
CADS全体	2.52 (.27)	.74	2.53 (.27)	2.52 (.28)	.29	.02	166.13		
①積極的	2.81 (.45)	.73	2.86 (.47)	2.78 (.44)	1.15	.09	159.59		
②目立ちたがり	2.20 (.57)	.80	2.18 (.57)	2.21 (.58)	-.29	.02	165.13		
③支配的	2.05 (.47)	.68	2.07 (.44)	2.04 (.51)	.39	.03	168.81		
④警戒的	2.59 (.58)	.63	2.52 (.64)	2.64 (.52)	-1.29	.11	148.63		
⑤面倒くさがり	3.27 (.47)	.42	3.33 (.49)	3.25 (.44)	1.08	.09	155.87		

※効果量*r*値の目安 .10小, .30中, .50大

研究については男女をまとめて分析する。

## 2. 各タイプ代表者による分類基準の設定

ここでは研究者らが各タイプの代表者となる者を選定し、その代表者の調査結果から各タイプの得点範囲の設定を行うために分析を行った (表2)。CADS全体得点及び各下位因子の得点では、 $-1.25SD$ 以下の得点を低い、 $-1.25SD$ 以上平均以下はやや低い、平均以上 $1.25SD$ 以下はやや高い、 $1.25SD$ 以上は高いとした。結果として、ネコ2タイプとして想定できる代表者一人あたりのCADS合計得点は114.0点であり、各下位因子の得点は全体的に高かった。ネコ1タイプの代表者は96.5点であり、下位因子として警戒性が低かったが残りの因子は高かった。イヌ1タイプの代表者は86.7点であり、下位因子は積極性、目立ちたがり、支配性

が低く、警戒性と面倒くさがりが高かった。イヌ2タイプの代表者は65.0点であり、下位因子の得点は全体的に低かった。これらの結果から分類の得点範囲を設定することにした。大きく二つに分けるCPTとDPTの境となる得点は平均値が妥当であった。次にネコ2タイプとネコ1タイプを分ける基準として、 $1SD$ とすることが人数割合としては適切であったが、代表者に調査を行い分類してみると、ネコ1タイプの特徴を持つ代表者のCADS合計得点がネコ2タイプに該当していた。そこで $1.25SD$ を境に分類すると、その代表者はネコ1タイプに分類されていた。従って、この違和感が最もなくなる $1.25SD$ が妥当であると考え、これを分類の範囲基準であるとした。表3は $1.25SD$ で分けたときの各タイプの平均値及び $SD$ を示しており、この分析では参加者と副参加者のデータが含まれている。

表2 CDPTタイプ別代表者の平均得点

	ネコ2タイプ $n=3$	ネコ1タイプ $n=2$	イヌ1タイプ $n=3$	イヌ2タイプ $n=2$
	$M$ (得点分類)	$M$ (得点分類)	$M$ (得点分類)	$M$ (得点分類)
CADS全体	114.00	96.50	86.67	65.00
①積極的	3.23	3.25	2.67	2.10
②目立ちたがり	3.37	2.72	1.89	1.56
③支配的	3.00	2.21	2.00	1.14
④警戒的	3.27	1.60	3.00	2.10
⑤面倒くさがり	3.50	4.00	3.50	2.88

表3 CDPTタイプ別の平均値とSD

	ネコ2タイプ $n=17$	ネコ1タイプ $n=66$	イヌ1タイプ $n=74$	イヌ2タイプ $n=19$
	$M(SD)$	$M(SD)$	$M(SD)$	$M(SD)$
タイプ分類の得点範囲	100点以上	88点以上～100点未満	77点以上～88点未満	77点未満
タイプ分類のSD範囲	$1.25SD$ 以上	平均以上～ $1.25SD$ 未満	$-1.25SD$ 以上～平均未満	$-1.25SD$ 以下
CADS項目合計	105.76 (6.63)	93.89 (3.07)	82.84 (3.11)	73.79 (4.32)
CADS項目平均	3.02 (.19)	2.68 (.09)	2.37 (.09)	2.11 (.12)
タイプ人数割合	9.6%	37.5%	42.1%	10.8%
①積極的	3.21 (.29)	2.99 (.37)	2.67 (.40)	2.35 (.36)
②目立ちたがり	3.01 (.40)	2.50 (.38)	1.91 (.39)	1.56 (.39)
③支配的	2.41 (.48)	2.16 (.49)	1.99 (.40)	1.60 (.29)
④警戒的	3.15 (.48)	2.61 (.59)	2.47 (.50)	2.42 (.60)
⑤面倒くさがり	3.48 (.36)	3.33 (.48)	3.18 (.47)	3.25 (.43)

### 3. 参加者の親友の割合とCDPTタイプ別の相性

各CDPTタイプ別に参加者が親友として認めた人数とその人数割合を表4に記した。参加者が指定した親友が複数いる場合は、どの副参加者が参加者の最も親交の深い親友であるかについては研究者側から分からないため、この分析では参加者を複製し、組み合わせの数が減らないように調整した。その結果、各タイプの参加者が送った親友の人数割合には大きな偏りが見られなかった。

次に各タイプの相性を検討するため、参加者が親友と認めた副参加者のタイプの割合を算出した(表5)。この分析では各タイプ別に割合を算出しているが、各タイプの人数割合が異なり、ネコ2タイプとイヌ2タイプはそれ以外のタイプに比べて人数が少ないことか

ら、それぞれのタイプが同じ人数割合になるようにするため、重みづけをして、割合を算出した。その結果、最も多い割合の組み合わせについて、ネコ2タイプはネコ1タイプ(41.3%)、ネコ1タイプはネコ2タイプ(34.0%)、イヌ1タイプはイヌ1タイプ(37.0%)、イヌ2タイプはネコ2タイプ(32.1%)であった。

### 4. CADSと外的基準(性格検査)との関連

最後に、妥当性の検討をするため、BigFive短縮版を用いて一要因分散分析を行った(表6)。この分析では参加者と副参加者のデータを使用した。その結果、外向性と開放性、協調性に有意な差が見られた(外向性： $F(3, 172) = 13.03, p < .001$ 、開放性： $F(3, 172) = 7.86, p < .001$ 、協調性： $F(3, 172) = 4.37, p < .01$ )。

表4 親友の人数と割合

	ネコ2タイプ <i>n</i> =17	ネコ1タイプ <i>n</i> =66	イヌ1タイプ <i>n</i> =74	イヌ2タイプ <i>n</i> =19
親友の人数	7名	28名	34名	7名
親友がいる割合	24.9%	25.5%	27.6%	22.1%

表5 参加者選定による親友のタイプ割合と人数

参加者のタイプ	親友のタイプ			
	ネコ2タイプ 割合(人数)	ネコ1タイプ 割合(人数)	イヌ1タイプ 割合(人数)	イヌ2タイプ 割合(人数)
ネコ2タイプ	40.3% (1名)	41.3% (4名)	18.4% (2名)	0.0% (0名)
ネコ1タイプ	34.0% (4名)	23.9% (11名)	19.4% (10名)	22.7% (3名)
イヌ1タイプ	28.7% (3名)	34.3% (14名)	37.0% (17名)	0.0% (0名)
イヌ2タイプ	32.1% (1名)	24.7% (3名)	14.6% (2名)	28.6% (1名)

表6 CADSとBigFive短縮版の一要因分散分析結果

	ネコ2タイプ <i>n</i> =17	ネコ1タイプ <i>n</i> =66	イヌ1タイプ <i>n</i> =74	イヌ2タイプ <i>n</i> =19	<i>F</i>	$\eta^2$	Tukey
	<i>M</i> ( <i>SD</i> )	<i>M</i> ( <i>SD</i> )	<i>M</i> ( <i>SD</i> )	<i>M</i> ( <i>SD</i> )			
外向性	5.08 (1.01)	4.67 (1.17)	3.98 (1.18)	3.15 (1.12)	13.03***	.19	ネコ2>イヌ1***とイヌ2***, ネコ1>イヌ1***とイヌ2*** イヌ1>イヌ2*
情緒不安定性	5.24 (1.18)	5.12 (1.33)	5.14 (1.03)	5.68 (1.26)	1.18	.02	
開放性	4.01 (.94)	3.65 (.84)	3.24 (.84)	2.87 (.91)	7.86***	.12	ネコ2>イヌ1**とイヌ2***, ネコ1>イヌ1**とイヌ2***
協調性	3.83 (.78)	4.29 (1.10)	4.72 (.93)	4.42 (1.16)	4.37**	.07	イヌ1>ネコ2**
統制性	3.49 (.97)	3.08 (1.04)	3.49 (.84)	3.48 (.96)	2.58	.04	

※効果量 ( $\eta^2$ ) の目安：.01 ~ =小, .06 ~ =中, .14 ~ =大

\* $p < .05$  \*\* $p < .01$  \*\*\* $p < .001$

## 考察

本研究の目的は、CADSにおけるCDPTを4段階に分類すること、4種類のCDPTにおける相性の組み合わせを調べることで、CADSの信頼性と妥当性の検証を行うこと、利便性の高い簡便な質問紙例を示すこと、各CDPT分類のイメージを成す動物を設定することが目的であった。

### 1. 信頼性と妥当性の検証及び性差の検討

まずCADSの信頼性について $\alpha$ 係数を見てみると、面倒臭がり因子が.45と低く、それ以外の因子は概ね安定した指数であった。しかし、この尺度は合計得点を算出して使用することが目的であり、各因子で見る尺度ではないことから、それほど大きな支障にはならないと考えられた。次に確認的因子分析の結果では、適合度は先行研究である田中・土居 (2021) よりも、やや下がっている傾向にあったが、今回の参加者の少なさから考えると、妥当な範囲であると考えられる。そのため、因子モデルは適切であると考えられた。性差もなかったことから、CDPTは性別によって違いがない概念であることが示された。最後にCADSとBigFive性格尺度の一要因分散分析の結果 (表6) より、ネコ2タイプとネコ1タイプは、外向的で開放性が高く、協調性が低いことを示しており、CADSで測定しているCDPTの概念と一致していた。このことから構成概念としての妥当性の一側面が確認できたと言えよう。

### 2. タイプ別代表者によるCDPT分類とその特徴

CADSの分布を元にCDPTを4種に分けることにした。その結果、ネコ2タイプは、積極的で目立ちたがり屋で支配的な性格であり、他者に対して警戒的で面倒くさがり屋な傾向を示していた。ここから実際の動物のネコとしてイメージしてみると、大型のネコ科の動物であり、リーダー的な風格のある「ライオン」で

あろう。ネコ1タイプは積極的で、目立ちたがり屋、支配性、面倒くさがりであるところはネコ2タイプと同じであるが警戒性が低かった。目立ちたい気持ちやわがままな面を持つが、誰に対してもオープンな姿勢を見せることから、自分の思いのままに自由に動きたいという意味が感じられる。そこで実際の動物のネコで置き換えると、小型のネコとして自由に動き回るイメージがあり、「アメリカンショートヘア (通称アメシヨ)」が合うであろう。イヌ1タイプは、消極的で引っ込み思案で従順ではあるが、警戒的で面倒くさがりであった。このような性格はイヌの中でも小型犬のイメージであり、警戒的に吠えるイメージがあることから、「柴犬」が近いのではないだろうか。イヌ2タイプは、消極的で引っ込み思案で従順であり、無防備的で真面目な性格であった。これは落ち着いたおおらかな性格を表しており、動物のイヌで例えると大型犬であり、「ゴールデンレトリバー (通称レトリバー)」が最も近いと考えられた。これらのことから、CDPTの4種に当てはまりそうな人を研究者らで直感的に選んだとしても、タイプ分類の得点範囲内に収まっており、妥当な結果となっていた。これは他者から見た行動と参加者自身が回答する結果が一致しており、その面においても妥当性 (他者評価による妥当性) が確認されたとも捉えられる。

### 3. 参加者が選定した親友の割合とタイプ別の相性

参加者が親友として選んだ割合は、各タイプにおいて同程度であった。そのため、本研究の分析は各タイプが同条件で行われたと考えられる。次にタイプ別の相性について調べるため、参加者のタイプと親友のタイプの組み合わせを検討することにした。その結果、組み合わせの割合が最も高かったのは、ネコ2タイプに対してはネコ1タイプ、ネコ1タイプに対してはネコ2タイプ、イヌ1タイプにはイヌ1タイプ、イヌ2タイプはネコ2タイプであった。ネコ2タイプとネコ1タイプは双方向性の相性であること、イヌ1タイプ



はイヌ1タイプ同士で強い結びつきがあること、イヌ2タイプはネコ2タイプと関係が強いことが確認された。ネコ2タイプとネコ1タイプが双方向であることについて、おそらくCPTは自身からコミュニケーションを取ろうとして話しかけることから、会話が盛り上がりやすいと考えられ、CPT同士の方が話の内容が合うのではないかと考えられる。イヌ1タイプ同士の組み合わせが多いのも、会話の内容や日々の過ごし方のテンポが合いやすいからであろう。一方でイヌ2タイプにネコ2タイプが多いのは、ネコ2タイプが支配性があり、イヌ2タイプが従属性があることから、主従関係から考えると納得がいくし仮説とも一致する。ただしこれらの結果は、大学という学校場面において親友を選んでいることから公的な関係性である。田島(2017)は、公的な関係(外で他者に見せている性格)と私的な関係(一人でいるときの素のままの性格)の二つに分類し、それぞれ相性が異なることを述べている。したがって、本研究において公的な場面では、このような結果を示したが、私的な状況に近い例えば家族や恋人に対する相性となると、選ぶタイプも異なる可能性があるだろう。以上のことから、本研究結果は現実の生活に置き換えてみても納得しやすいことか

ら、実用性や有益性があり、尺度として様々な研究者や一般の方から活用されやすいのではないかと考えられる。

#### 4. 質問紙の見本と各CDPTの説明と解釈

以上の結果から、図1にCADS用紙の見本を、図2にタイプ分類の解釈を記す。この解釈は結果の因子を元にして作成しており、日常場面に置き換えやすく、読みやすいようにアレンジしている。そのため、結果と照らし合わせるとやや飛躍している文言もあるが、汎用性や使用頻度を高めるために工夫している。

#### 5. 本研究の意義と問題点、今後の展望について

本研究はCADSの記入から集計、そして解釈までを簡便にできるように工夫したこと、CDPTの分類及び相性の組み合わせについて検討したところに意義がある。面倒くさがり因子において $\alpha$ 係数が低かったことが問題であったが、全体を見る尺度であるため、それほど大きな問題ではないが、尺度の再構成も考えていく必要があると思われる。今後は、私的な関係における相性組み合わせの検討も行われることが期待される。

#### 付記

第2著者の鳥越貴裕の所属については、研究を行っていた前所属を記している。

#### 文献

- Alba, B. & Haslam, N. (2015). Dog people and cat people differ on dominance-related traits. *Anthrozoös*, 28, 37-44.
- McKinnon, T. & Patnaik, G. (1998). *LIKE CATS AND DOGS: REVEALING YOUR FELINE OR CANINE SELF*. Sheedy Literary Agency, Inc. and Sterling Lord. (マッキノン, T.・パトナイク, G.著 湯河京子訳 (1999). 性格がイヌ型かネコ型かわかれば, 人生は100倍ラクになる 読売新聞社).
- 並川努・谷伊織・脇田貴文・熊谷龍一・中根愛・野口裕之 (2012). BigFive尺度短縮版の開発と信頼性と妥当性の検討 心理学研究, 83 (2), 91-99.
- 岡田涼 (2008). 親密な友人関係の形成・維持過程の動機づけモデルの構築 教育心理学研究, 56, 575-578.
- 斉藤慈子 (2010). ネコ好きとイヌ好きでパーソナリティは異なるか 日本心理学会第74回大会発表論文集, 21.
- 斉藤慈子・中村敏健・平石界・長谷川寿一 (2011). ネコ好きとイヌ好きでパーソナリティは異なるか (2) 日本心理学会第75回大会発表論文集, 40.

新村出 (1998). 広辞苑 岩波書店.

Stanley, C. (2010). Personality Differences Between Dog and Cat Owners. Psychology Today.

<https://www.psychologytoday.com/intl/blog/canine-corner/201002/personality-differences-between-dog-and-cat-owners> (2021/12/19 access)

鈴木立雄 (1999). イヌおよびネコという動物 ペット栄養会誌, 2 (1), 16-24.

田中沙貴・土居正人 (2021). ネコイヌパーソナリティタイプ尺度作成の試みと信頼性・妥当性の検討 性格特性の構造の探索的研究 吉備国際大学心理・総合発達総合研究センター紀要, 7, 35-43.

田島司 (2017). イヌ好きとネコ好きのパーソナリティの特徴 パーソナリティの多面性とペットのパーソナリティとの類似性について パーソナリティ研究, 26 (2), 109-120.

Woodward, L. E., & Bauer, A. L. (2007). People and their pets: A relational perspective on interpersonal complementarity and attachment in companion animal owners. *Society & Animals*, 15, 169-189.



図1 CADSの項目と集計

	下位タイプ	主な下位因子	解説
ネコタイプ	ネコ2タイプ 大型で先導的なネコ 「ライオン型」	活動的 (中) 目立ちたがり (大) 支配的 (大) 警戒的 (中) 面倒くさがり (中)	このタイプのあなたは、ライオンのようなリーダー的な大型のネコタイプです。あなたは興味があることに対しては積極的かつ目立ちたがり屋である一方で、興味の無いことには面倒くさがりな傾向があります。それは、ライオンが獲物を狩る時のみに全力を尽くす姿と重なります。そのため、自発的な行動力があるため、意欲が高い時は多くの課題を処理することができ、決まり切った作業をこなすことは苦手であると考えられます。また、自分のグループの仲間意識の高さから縄張り意識が強いようです。自分のグループに他者が入らないように警戒する反面、仲間のためならどんなことにも頑張れるたくましさや責任感を持っています。  このタイプの他者と関わる時には、目立ちたがりやで支配性が強いことから、ストレートに褒めたりおだてたりすることが有効です。このタイプの他者は、距離が近くなるほど支配的になる傾向があるため、一歩距離を開けて関わると、ちょうどよい距離感を保つことができ、あなたにとって強力なパートナーになると考えられます。
	ネコ1 小型で愛嬌あるネコ 「アメショ型」 (アメリカンショートヘア)	活動的 (中) 目立ちたがり (中) 支配的 (中) 無防備的 (大) 面倒くさがり (大)	このタイプのあなたは、アメリカンショートヘアのような愛らしい小型のネコタイプです。積極的で目立ちたがり屋かつ面倒くさがり屋であることから、珍しいものや新しいもの、楽しいことには、すぐに飛びつく傾向にあります。その面倒くさがりな態度は、まるでアメショのようなふてぶてしい愛らしさとして映ります。そのため、周囲から可愛がられやすい傾向にあります。ライオンタイプの友達と一緒にいれば、盛り上がりやすく、自身にも注目が浴びやすくなることから相性が良いと言えるでしょう。あまり目立ちすぎると、ライオンタイプの仲間から注意されがちです。作業や課題については、積極性があり面倒臭がりであることから、自由度の高い作業については得意であり、同じ作業をすることは苦手であると考えられます。  このタイプの他者と関わる時には、目立ちたがりの気持ちは高いことから、努力した成果をしっかり褒めることが有効です。このタイプの他者は、縄張り意識や所属感が乏しく、かつ積極的であることから、グループの輪からすぐに離れていってしまうことが多くあります。そのため、常に一緒にグループとして集団活動を行うのではなく、必要に応じて誘って、程よい関係性を保つことができると考えられます。
イヌタイプ	イヌ1 小型で友好的なイヌ 「柴犬型」	消極的 (中) 引っ込み思案 (中) 忠誠的 (中) 警戒的 (中) 面倒くさがり (中)	このタイプのあなたは、柴犬のようなやや大人しい小型のイヌタイプです。消極的で引っ込み思案、面倒くさがり屋であることから、様々な活動において、自分から率先して行動することは少なく、自由度の高い作業を任せられることが苦手です。その一方で、同じことを繰り返す作業をこなすことは得意であると考えられます。消極的であるとはいえ、レトリバータイプよりは自発的に行動することがあり、かつ忠誠的な姿勢を持つことから、これは柴犬が飼い主に対して目を輝かせながらお座りする姿と重なります。友好的で明るくはしゃぐ姿を見せることから、このタイプの人は周囲の人から好かれやすい傾向にあると考えられます。  このタイプの他者と関わるには、褒めることよりも、何がいけなかったのかについて具体的に伝える方が効果的です。社会的な利益（褒めたり認めたりすること）よりも、実質的に得られる利益（お金や食べ物）の方を求める傾向が強いいため、実益的な関わり方をすることで、良い関係が築かれるでしょう。
	イヌ2 大型で温厚なイヌ 「レトリバー型」	消極的 (大) 引っ込み思案 (中) 忠誠的 (大) 無防備的 (中) 真面目 (中)	あなたはゴールデンレトリバーのような、おおらかな大型のイヌタイプです。消極的で引っ込み思案、かつ忠実であることから、仕事や学業において、やるべきことがはっきりしていれば、一つ一つゆっくりと確実にこなすことができます。その忠誠的で真面目な態度は、レトリバーのように、大きく、どしりと構えている姿と重なります。そのため、相手を素直に認め受け入れ、支えることが得意で、人の心のよりどころとなるような人であると考えられます。  このタイプの他者と関わるには、褒めることよりも、どこで強いたのか、どのようにすれば良いのかについて、具体的な対応方法を指示することが有効です。特に、仲間意識を持たせることやあうんの呼吸で関わるような社会的な交流よりも、ルールを徹底した方が分かりやすく、仕事なども面倒くさがらずに素直に遂行してくれることから、関わり方を理解すれば、頼もしいパートナーになることでしょう。

図2 CDPTにおける下位タイプの解釈

